

## 「使徒会議の決議を手紙に認める」

2016年06月28日

使徒言行録 15 章 22 節～29 節。そこで、使徒たちと長老たちは、教会全体と共に、自分たちの中から人を選んで、パウロやバルナバと一緒にアンティオキアに派遣することを決定した。選ばれたのは、バルサバと呼ばれるユダおよびシラスで、兄弟たちの中で指導的な立場にいた人たちである。使徒たちは、次の手紙を彼らに託した。「使徒と長老たちが兄弟として、アンティオキアとシリア州とキリキア州に住む、異邦人の兄弟たちに挨拶いたします。聞くところによると、わたしたちのうちのある者がそちらへ行き、わたしたちから何の指示もないのに、いろいろなことを言って、あなたがたを騒がせ動揺させたとのことです。それで、人を選び、わたしたちの愛するバルナバとパウロとに同行させて、そちらに派遣することを、わたしたちは満場一致で決定しました。このバルナバとパウロは、わたしたちの主イエス・キリストの名のために身を献げている人たちです。それで、ユダとシラスを選んで派遣しますが、彼らは同じことを口頭でも説明するでしょう。聖霊とわたしたちは、次の必要な事柄以外、一切あなたがたに重荷を負わせないことに決めました。すなわち、偶像に献げられたものと、血と、絞め殺した動物の肉と、みだらな行いとを避けることです。以上を慎めばよいのです。健康を祈ります。」

使徒会議は異邦人に律法や割礼を強要せず、恵みによって、主イエスの十字架と復活によって罪が赦され、神から「義」とされる是認に与っているという福音理解の合意に達した。使徒たちと長老たちは、兄弟の中で指導的な立場にいたバルサバと呼ばれたユダとシラスを選び、パウロやバルナバと一緒にアンティオキアや教会に派遣することを決めた。そして、徒な混乱を抑えるために、決議を手紙に認め、ユダとシラスに託した。

手紙は「使徒と長老たちが兄弟として、アンティオキアとシリア州とキリキア州に住む、異邦人の兄弟たちに挨拶いたします」と書き始め、下記のように書いている。エルサレム教会のある者があなた方異邦人教会に行き、私たちから何の指示もないのに、色々なことを言って、あなた方を騒がせ動揺させた。それで、ユダとシラスを選び、私たちの主イエス・キリストの名のために身を献げている、愛するバルナバとパウロとに同行させて、派遣することを満場一致で決定した。エルサレム教会から派遣した二人は同じことを口頭でも説明するでしょうが、「聖霊とわたしたちは、次の必要な事柄以外、一切あなたがたに重荷を負わせないことに決めました」。あなた方異邦人に律法や割礼などのユダヤ教の教義や伝統の重荷を一切負わせないと明記している。これが、使徒会議の最重要決議である。これによって、律法に従っているか否かには関わりなく、ただ、主イエスを信じる者を救うという福音の真理が明確にされた。使徒会議の決議は、どんなに大きく評価されても、され過ぎることはない。パウロたちは、この決議によって異邦人宣教を進め、ユダヤ教の枠を超えて、世界の宗教として展開できるようになったのである。ただ、「偶像に献げられたものと、血と、絞め殺した動物の肉と、みだらな行いとを避けることです」という付帯事項が付けられている。

パウロはガラテヤ書 2 章に、使徒会議において福音の自由が確保されたことを喜び、自分たちは異邦人たちへ、使徒たちは割礼ある者たちへ宣教に向かうと書いている。そして「ただ、わたしたちが貧しい人たちのことを忘れないようにとのことでしたが、これは、ちょうどわたしも心がけてきた点です」ということが付帯事項であったとしている。